

G3 vol.136「コーダ・ヨーコ原画展 どうぶつえんのどうぶつたち」関連イベント

## コーダ・ヨーコ アーティストトーク

日時 2020年9月5日(土) 10:15-11:15  
場所 熊本市現代美術館 ギャラリー III  
講師 コーダ・ヨーコ (グラフィックデザイナー、イラストレーター)  
司会進行 富澤治子 (熊本市現代美術館学芸事業班主査・学芸員)



撮影：坂本和代

---

G3 vol.136「コーダ・ヨーコ原画展 どうぶつえんのどうぶつたち」

会期 2020年9月2日(水) - 10月25日(日)

会場 熊本市現代美術館 ギャラリー III・井手宣通記念ギャラリー

**富澤** ただいまよりコーダ・ヨーコさんのアーティストトークを開催いたします。台風対策の準備でお忙しい方もいらしたかと思います。今朝はなんとかお天気が保ちまして、皆様に集っていただけました。

本展は、熊本市動植物園のどうぶつ案内板を描かれたコーダ・ヨーコさんの個展です。それらの原画の制作秘話や、これから10月12日の完成に向けて当館で制作していただきます大壁画の話などお聞きしたいと思っています。

展覧会場でのトークの開催はコーダさんのご希望です。コロナ対策として安全な距離を保ちながら、楽しく行いたいと思います。それでは、コーダさんよろしく願いいたします。

**コーダ** 今日はありがとうございます。人前で話をするのがとても苦手なので、緊張してうまく喋れないかもしれませんが、何か質問があればどしどしお気軽に聞いてください。よろしくお願いします。

**富澤** まず、この展覧会について詳しくお話を聞きたいと思っております。105点の原画作品が展示されていますが、展示構成が、これまでの他会場での同シリーズの展示とはちょっと違います。こういう構成にした理由からお話いただけますか。

**コーダ** 出品しているのは、熊本市動植物園の解説パネルのために描いた動物たちの絵の原画です。描く時に、熊本市動植物園が、将来的に、実際に動物たちが野生で暮らす地域ごとに、動物園を整備していきたいというお話を聞きました。それを反映して、解説パネルをつくるにあたり、例えばアジアに暮らす動物、日本に暮らす、アフリカ、アメリカ、オセアニア、マダガスカル、北極と、実際に動物たちが暮らしてる地域ごとに、パネルの背景色も分けて作りました。今回、熊本市現代美術館で展示させていただくにあたり、折角だったら、その実際に動物が暮らす地域ごとに展示するのも面白いかなと思ひまして、それで、動物たちが暮らす地域別に展示をしています。

**富澤** 各ゾーンの始まりに木材の装飾を用いたのがアクセントとしてすごく良いですね。

**コーダ** ありがとうございます。作品と額がちょっと無機質な感じなので、少し立体的なものを、会場の空間づくりに取り入れたいなと思って、自然を感じさせるような感じで、流木や古木材を使ってつくりました。



会場風景

**富澤** 原画についてお聞きしたいと思います。105点のシリーズ作品ですが、そもそも描き始めたきっかけは？

**コーダ** 描き始めたきっかけは、まず熊本地震がありました。熊本市動植物園は、本当に子供の頃から近くで生活していたので、地震が起こる前から、よく行っていた場所ではあるんですけども、熊本地震のあとも、よく癒やされに行ってたんですね。そんな中で、熊本市動植物園の今の副園長の松本さんから熊本地震でまだ閉鎖されていた時にご連絡をいただきました。

**富澤** 被害が大きかったですよね。

**コーダ** ものすごく大きな被害を受けて閉鎖されてたんですけど、松本さんが「復興に向けて、古くなって老朽化している解説パネルを一新したい。全国から日本水族館動物園協会に義援金が集まっているので、それを使って全部作り変えたい」とお電話がありました。きっかけはそれです。任せたいとおっしゃっていただいたので、それで描き始めました。

**富澤** 何から描き始めるとか、そういうお話はしたんですか？

**コーダ** どれから描き始めるっていうのは特になかったんですけど、動植物園からこのようなりすとが届きました。この上から順に描き始めました。

解説パネルには、大きく分けて3つのサイズがあり、L・M・Sサイズがあります。Lサイズのリストの一番上から始めました。とにかく数が多いのと、限られたスケジュールの中で全部仕上げるために、とにかく間違いがないように、上から順に攻めていった感じです。

**富澤** 描いていく時に、リストの上から順に動物たちを見に行っただけですか？

**コーダ** 上から順に動物の見学をしました。

**富澤** 1頭というか1種類あたりに、どのくらいの時間をかけましたか？

**コーダ** そうですね、その動物にもよります。1時間ぐらいかけてずっと眺めてた子もいますし、あと松本さんに付き添ってもらいながら、飼育小屋に入れてもらって見たりすることもあったので、そのときは、さすがに1時間も付き合わせるわけにはいかないので、そういうときは、もうちょっと短めにしていました。自由に見学できる動物は、もう本当に、心ゆくまで見学させていただいて…。

**富澤** コーダさんは、絵を描かれる下準備として、現場でスケッチをしますか？

**コーダ** スケッチは、しないです。もちろん細かいところを観察したいっていう気持ちもあって行きましたけど、どちらかというと挨拶しに行ったというか…。

仕事とかで打ち合わせをする時に、メールでやり取りをして仕事をするよりも、直接会って、目を見て話をして、それで仕事をした方が、すごく心を込めて仕事ができる。今回の絵を描く時も、同じ感覚でした。その動物の、言わば人となりのようなものを感じたいと思って、その動物に「描かせていただきます」とご挨拶をしに行くっていう感覚です。

**富澤** 原画では、動物ごとに様々なポーズをしているじゃないですか。こういうポーズって、観察するなかで、こう描こうかなとコーダさんなりに見つけた感じですか？

**コーダ** 最初に、藤井さんという獣医さんから解説文が届くんですね。解説文をまず読んで、例えばそこでシッポのことが書いてあったら、シッポを描きたい。手のことが書いてあったら、手を描きたいっていうのが、まずあります。

あと、観察に行った時に、写真も自分で何枚かは撮影したんですけど、その時にちょっと面白いポーズが撮れたり、あとはネットで検索して、レイアウト上こういったポーズが良いかなと参考にしたものもあります。

**富澤** 今日は特別に、この原画シリーズを本格的に描き始める前に、見本として制作した作品を持って来てくれていますので、それと原画の違いについてお話いただきたいと思います。どんな事業でも、実際に始まる前にプレゼンが必要で、「こういうのが出来ます」と、いろんな人に見せて、「いいね、いいよね、進めよう」という下準備があるかと思うんですが、そのために描いた見本を、サプライズで持って来ていただきました。

**コーダ** 企画書を最初に作るんですよ。解説パネルはこういったサイズ展開で、「そうすると予算も安く済みます」とか、「その中に解説文がこういったレイアウトで入って、イラストがこういったボリュームで入ります」という見本を動物園に提出して、それでOKが出てから実際取り掛かるという流れなんですけど、そのときに、企画書用に描いた作品です。今展示されているものと比べていただくと分かると思うんですけど、よりキャラクターっぽいというか、イラスト色が強いですね。

**富澤** この見本から今のスタイルに変わっていくのに、どういうきっかけがあったんですか？

**コーダ** きっかけは、実際に動物たちに会ったことです。会っていくなかで、何か、リアルっていう訳ではないんですけども、もうちょっと本当の動物たちに寄せたい、もっと近づきたい、そういう気持ちが強くなっていったと思います。

描きながら、生物学に詳しい友人にアドバイスをもらったり、飼育員さんには一度全てを見ていただいています。飼育員さんのご意見もいただきながら、解説パネルとして相応しいタッチというか、そこを模索しながら描いていきました。リアルとデフォルメの、バランスみたいなものを図りながら制作しました。完成するまでに何回か描き直した動物も結構あります。

**富澤** 似顔絵じゃないんですけども、動植物園に実際にいる動物たち各々を、念頭に置いて描いたということですね。

**コーダ** そうです。

**富澤** 次は表現の話をしたと思うんですけども、動植物園にある解説パネルだけだと絶対知り得ないことで、原画を見て初めて気付くことなんですけど、紙が2種類あるんです。クラフト紙と、画用紙。それぞれ、すごく良い効果になってるんですけど、どうして、黒で背景を塗りつぶした画用紙とクラフト紙の2種にしたのか、お話をお聞かせいただけますか。

**コーダ** まず、なぜ画用紙では背景色を黒にして描いたかについて、キャンバスや、板に描くとか色々ありますが、画用紙に背景を黒にして、動物をクレヨンで描いた感じが、毛並みなどをより良い感じで表現できるなと気付きました。それで、黒い画用紙に描こうと思いました。ところが、このホロホロチョウを見ていただきますとお分りの通り、黒に黒を描くと、全然目

立たない。描いたあとで「あ、これはマズイ」と気付いた（笑）。それから黒い動物はクラフト紙に描こうと思って、クラフト紙をチョイスしました、っていう説明で大丈夫？



**富澤** 大丈夫です。クラフト紙を選んだのはなぜですか？

**コーダ** クラフト紙、なんでだろうな…。今回描くときに、背景が白ではなくて、何か色が付いている方が良かったのと、ナチュラルな感じもする。あと、白い動物もクラフト紙に描いているんですが、例えば白孔雀も描いてるんですけど、白い画用紙に今度白孔雀を描くと…。

**富澤** 消えますね（笑）。

**コーダ** 消えちゃう（笑）。でも黒の背景に白孔雀を描いたら、なぜか、あのふんわり感がなくなる。クラフト紙に描くことであのフワフワ感が表現できて、なんかちょうどいい色合いというか、質感が出せて…、なんかそんな感じですね。上手に説明ができないけど。

**富澤** このシリーズは、色鉛筆とクレヨンで描かれてるそうですが、最初からクレヨンで描かれるんですか？

**コーダ** アウトラインだけ最初に色鉛筆です。黒いときは白の色鉛筆。クラフト紙では、黒だったり茶色だったり。白い動物を描くときは白の色鉛筆で描いたりして、アウトラインだけ色鉛筆

で描きます。あとはクレヨンです。

**富澤** 主にクレヨンなんですね。

**コーダ** 主にクレヨンです。普段は、アクリル絵の具を使って描くんですけど、今回も、使い慣れたアクリル絵の具の方が、描きやすいかなとは思ったんですけども、動植物園に展示されるものなので、お子さん達も見るとのだから、子どもにとっても身近な画材を使いたいなと思っていて、それで今回はクレヨンで描いています。

**富澤** クレヨンで描いてみて、どうでした？

**コーダ** 楽しかったですね。特に鳥はもう本当に難しくって、何回も描き直したりもしたんですけど、発色を良くするために、最初に白いクレヨンを塗って、その上から色を乗せてなどと、重ね塗りをしています。あとクレヨンも、例えば、画用紙の上でブルーと緑を混ぜて描いたり…、そんな感じで描いています。

**富澤** クレヨンだと細かいところは描きにくいですね。

**コーダ** そうなんです。だけんカッターで削って、先っちょ細くして描いたりとかもしてますし、どうしてもクレヨンでも追い付かんときは、色鉛筆の力を借りたりとかもしました。あとひとつ、今回の作品で特徴的なのは「目」で、本当に表情が変わるんですよね。全然別人になるんです。だけんその、上手だったらサササと描けるんですけど、私は自分の画力に自信がないので、目だけは別の紙に描いて、それを切って貼ってます。だから、これじゃない、あれじゃないって言って、ピンセットで載せては取り換えたりしながら、目だけは別に貼ってます。

**富澤** じゃあ、目のコレクションがあるわけですね！

**コーダ** そうです。目のコレクションは来週のスペシャルトークでお披露目予定です。

**富澤** 続いて、インタビューのことをお聞きしたいと思ってます。今回、展示されている原画の合間に、獣医さん3名と、飼育員さん10名のインタビューが展示されているんですけど、これは、コーダさんがご自身で企画し、取材し、デザインし、パネル化して展示した、すごい熱意のこもった特別なものなんです。このインタビューは本展を契機に是非やりたかったことだとお聞きしたんですけども、詳しくお聞かせいただけますか。

**コーダ** 今回の原画を描く時、というか、解説パネルを作るにあたって、何度も何度も動物園に通ったんですよね。もう、ウザったいぐらい通わせていただいたんです。その中で、動物園に

対する意識がものすごく変わったんです。それまでちょっと動物園って、子供のころは楽しい場所だったんですけど、大人になるにつれ、なんか切ない場所っていう意識もちょっとあり、動物が好きだから行ってたけど、歩ける場所と歩きづらい場所があったりしてたんですね。

だけど、通っていく中で、飼育員さんと獣医さんの、動物との距離感というか、接し方というか、そういったものを間近で見る機会が結構あって、それを見るたびにものすごく感動して、そして、その切ない気持ちが綺麗に無くなったんです。

それをなんとか伝えたいってずっと思っていて、だけど私はコピーライターでもないし、なかなかそういったことをお伝えする機会がなかったのですが、こちらでの個展が決まった時に、「この機会に伝える他、もうないぞ」と思って、それで慣れない取材を動物園に申し出て、松本さんがスタッフさんより13名をピックアップしてくださって、その方達にお話を聞いた次第です。

自分の言葉で紹介することも考えたんですけども、出来ればご本人達の言葉を通じてお伝えするのがたぶん一番伝わるだろうなと思いました。本当に皆さん、ものすごく動物のことを考えて、環境のことを考えて、動物たちに接してらっしゃるので、ご本人たちの言葉を借りてお伝えしたいなと思って。それで、慣れないことを試してみました。

**富澤** 13名の取材って結構大変ですね。

**コーダ** ヘロヘロになりました。元々おしゃべり自体が、あんまり得意な方ではないから、上手に聞き出せる自信もなかったんで、最初にアンケートというか、質問シートを皆さんにお渡しして、それに書いてもらったものを読みながら、インタビューをしていくっていうような作業でした。話を聞いている時は聞くだけで精一杯なので、ボイスレコーダーもネットで買いました。録音した後に、それを聞きながら文字に起こしました。あんまり文章が長いとたぶん読んでいただけないので、簡潔にまとめさせていただきました。

**富澤** 飼育員さんと獣医さん、皆さんのお顔の写真がすごい良いですね。

**コーダ** そうなんです。今もこの場を撮影してくれている、カメラマンの友人が写真を撮ってくれました。

**富澤** 今回の展示の妙といいますか、各担当さんの写真と、展示されている作品の動物には、連続性があるような工夫がされています。

**コーダ** そうなんです。アフリカゾウと担当飼育員さん。ヒガシクロサイと担当飼育員さんっていうように、動物の横に担当の飼育員さんも登場されています。

**富澤** パネルのサイズもちょうど良いですね！

**コーダ** はい。ばっちり合わせました!

**富澤** この作品の下にあるのは、どうぶつ案内板の内容のまま、動物の特徴が書いてあるキャプションなんですけど、これまでの経験として私が見た中で、最高に高級な仕立てです。この工夫についてお聞かせいただけますか。

**コーダ** 数が多いのですが、出来れば、解説文を読んで欲しいのです。こちらのパネルに登場している藤井さんっていう獣医さんが書いてくださったんですけど、2人のお子さんのお母さんで、子どもでも分かりやすいように、ちょっとでも興味を持ってくれるようにものすごく工夫して書いておられるんですね。だから、その解説文も、こちらの展示室で楽しんでもらいたいと思いました。どうしたら読んでもらえるかなと思って、少し角度をつけることで、読む時のストレスを減らせるかもと工夫しました。額とお揃いになってます。

**富澤** 今回の展示の額も、全部コーダさんのパートナーのお手製です。本展用にバージョンアップしていただいております、とても素敵ですね。

**コーダ** はい。頑張ってくれました。

**富澤** 今回の展覧会場の照明については、コーダさんが、パネルとキャプション、解説文を読んでもらうことが、とても大事と希望されましたので、普通の絵画の展示より会場をやや明るめにしています。

普段、展覧会では、解説文が多いとアンケートに「文字が小さい」、「そんなにたくさん読めない」など記入されることが多いんです。でも、今回は、原画展の一方、文字をたくさん読んでもらう展覧会ですので、それ用の照明のもと、非常に意識高くデザインされたキャプションを用いて、展示が行われています。

それぞれの飼育員さんとお話もとても印象的だったと思うんですけど、改めてインタビューで聞いて、「はあー、すごい!」って思ったことってたくさんあるでしょうね。

**コーダ** たくさんあります。日頃は無口で、話しかけても冗談しか言いなはらん飼育員さんとかもいらっしゃるんですけど、ちゃんと質問していくと、きちんと答えてくださって、やっぱりそういった深い思いで接してらっしゃったんだなっていうのも、改めて知ることでもできたし、想像してた以上にもものすごく細かいところまで考えて飼育されてるなっていうのが改めて伝わりました。今回は13名しかお話を聞けなかったんですけど、他の方たちにも聞いてみたいという気持ちになってます。

**富澤** 私も知らなかったなので、展覧会前にコーダさんから聞いたんですけど、飼育員さんと獣医さんの違いを教えてくださいませんか?

**コーダ** 私が知る限りでは、飼育員さんは日頃の動物のお世話をされる方ですね。健康管理もそうですが、限られた環境の中でいかに生き生きと暮らしていけるかを常に考えながら、エサにしても、ただエサをあげるのではなく、動物たちが退屈しないように、自然界の中でエサを一日かけて探して食べるように、動物園の中でもいろんなところにエサを隠したり、工夫してお世話をされている。パネルを読んでいただくとわかるんですけど、毎日のウンコとかも状態を見て、「ちょっと柔いのが続いているから整腸剤飲ませたほうがいいかも？」っていうのを、相談するのが獣医さんです。飼育員さんは担当の動物がいるけど、獣医さんは動植物園にいる全部の動物を診られるっていう、お医者さんですよ。

**富澤** 今、ウンコの話出たので、ゾウのウンコのところへ行きますでしょうか。当館での初ウンコ展示です。

**コーダ** 私が、どうしても展示したいと言って、動物園からお借りしてきました。

**富澤** 実物として、キリンの頭骨とゾウのウンコ、シフゾウやシカの角が出品されてます。どうしても展示したいと希望した、コーダさんのお気持ちをお聞かせいただきましょう。

**コーダ** 動物園に何回も通っていく中で気づいたんですが、角とか頭骨とか、そこらに無造作に置いてあるんですよ。ゾウ舎も相当通ったんですけど、ゾウ舎の横にマサイキリンの庭があって、ゾウ舎の皆さんが休憩される部屋にキリンの頭骨が無造作に置いてあるんですよ。最初見た時は、すごい感動して、でも行き慣れると段々見慣れてくるんです。でも一般の方達はなかなか、頭骨とか見れる機会もないし、ましてやウンコなんてね、まじまじと見ることも出来ないでしょうから。

このウンコは、通常は動植物園の動物ガイドで使われています。実際に子供達に触らせている教材を借りてきました。今はコロナの影響で動物ガイドは全部お休みされてるので、出番がないということ…。

**富澤** お借りできました。本展ではケース内に展示してます。キリンの骨を埋める話とか面白かったですよね。

**コーダ** 普通だと火葬するイメージなんですけど、こういった大型動物は一度、土に埋めるそうです。土に埋めて、微生物がお肉を全部分解して、何年後に発掘するかはそれぞれらしいんですけど、骨の状態になっているのを掘り起こすっておっしゃってましたね。埋まっているのがまだいくつかあるっておっしゃってました。

**富澤** なかなか知らない事ですよ。せっかくだから角も見ましょうか。キュウシュウジカの角は断面が違うんですよ。

**コーダ** そうなんです。これがキュウシュウジカで、シロタマジカと、シフゾウの角。シロタマジカとシフゾウは自然に落ちたものです。1年に1回落ちるんですよ。1年かけてここまで成長することに、まず驚きます。キュウシュウジカに関しては、飼育頭数が多いのである程度の時期になったら、オス同士が喧嘩になった時の怪我防止のために切るそうです。それでこれだけ断面が違う。1年に1回落ちるので、すごくたくさん保存されています。

**富澤** そのいくつかを綺麗に洗浄してもらい、こちらのケース内に展示しています。

**コーダ** シフゾウは自然界で絶滅している動物です。動物園でしか飼育されていなくて、今いるのがチョッパーっていうオスです、熊本市動植物園で生まれた子です。立派に成長して、特に今年の角はものすごく立派って飼育員さんがおっしゃってました。だからチョッパーがお父さんになってくれるといいねという話をしているところです。

**富澤** シフゾウは、冬、年末に角が落ちるらしいですよ。

**質問者 1** 何歳ぐらいから角が落ちるんですか？

**富澤** 立派に生えるのどのくらいからですか？

**コーダ** たぶん1年目から生えると思います。その年を重ねるごとに大きくなって、枝分かれしていくそうです。

**富澤** 今回展示してみていかがですか？

**コーダ** いや、なかなか角も良いですね。動植物園に行っていただくと、こういったものももちろん展示してあったりするんですけど、行かないと見れないので。実は重いんですよ。本当は持っていたきたいんですけど…、コロナが落ち着いた頃に動植物園に行っていただけると、たぶん触れると思います。

**富澤** 今回はコーダさんの原画作品と、その動物の角を近くで見れるという楽しみがありますね。シフゾウの原画は、すぐそこです。作画としてどう工夫されてるのかとか、さきほど話題に出た、リアルとデフォルメの工夫の様子も見ていただけたと思います。



撮影：坂本和代

それでは壁画関係の作品の方へ移動しましょうか。今回、展覧会と同時並行で進めているのが、当館の子育てひろば横の、授乳室やお手洗に通じる廊下の壁を、コーダさんプロデュースでリニューアルする大壁画制作のプロジェクトです。

このプロジェクトには、市民に是非参加していただこうと、コロナ前から準備しておりました。そしたらコロナ禍が始まって、当初の計画では全く対応出来なくなりました。当初の計画では、20人程度のグループを公募して作って、一緒に動植物園に行って、その場で皆で絵を描いて、というスケジュールを考えていましたが、当館も閉館、動植物園も閉園、しかもいつ再開するか分からない。

「さて、どうしましょうか？」と、コーダさんにいろいろお知恵をいただいて、絵の募集は郵送でのやり取りにしましょうとか、県下で150名に参加してもらおうとか、年齢層を決めるにあっても、絵が上手な大人に参加してもらおうより、学校が一斉休校になって、「今のおうち時間をどういうふうに過ごしているかな、不安な子もいっぱいいるだろうな」と想像して、幼稚園生から若い世代まで、5歳から25歳までにしましょうと決めて、募集を始めましたら、テレビ番組で大きく取り上げてもらえて、募集開始から一週間かからずに定員に達しました。

続々と絵が届いて、会場では、133点の作品を展示しています。それに関するコーダさんのお気持ちをお聞かせいただけますか。

**コーダ** はい。プロジェクトを進めたいけど、なかなか募集もかけれんし、どうしよう?ってなりました。でも、コロナ禍で学校が閉鎖してしまって、皆たぶん自宅で退屈してるだろうなと思っ

て、だったらお家で夢中になって描いてもらうと良いんじゃないかなと思いました。

私もしんどい時、熊本地震の時もそうだったけど、絵を描くことでちょっと心が落ち着くというか、自分と向き合える時間になるので、そうなるといいなという気持ちもありました。

それと、募集をかける時に、お願い事として「動物をよく観察して描いてください」を条件に入れたんです。動物園は閉園していたので、直接は見れないけど、「ZOOチャンネル」という名でYoutubeでの動画配信を始めていたので、それを見てちょっとでも動物のことを知ってから描いてくださいねと。

そしたら、もう本当に、「よく見て描いてるな！」っていう作品がものすごくたくさんあって、中には個性的な作品もものすごくたくさんあって、1枚1枚見るのがすごく楽しかったんです。こうやって壁全面に飾るとまた余計に圧巻ですね。良かったです、この企画。



会場風景

**富澤** 本当ですね。送っていただいた絵をどのように展示するかが、すごく重要なミッションでしたね。

**コーダ** そうですね。並びも、ものすごく考えました。この順番で並べるっていうのを前もって決めて展示作業に入りました。

**富澤** はい。コーダさんが展示プランを完璧に作ってきてくれました。作品が郵送で到着し次第、まず、縦に描かれている絵と横に描かれている絵に分けました。リ

ストに書き出して、各枚数は学芸アシスタントも一緒に数えてくれました。提出締め切り日直後に、まとめて縦と横でそれぞれ何枚ずつありますとコーダさんにお伝えし、コーダさんが、配置案を考えてくれました。そこで「なんとかこの壁に入りそうだ!」というのが見えてきたんです。

**コーダ** 最初、入らんかも知れん…って言ってたんですよ。

**富澤** 150枚全部届いてたら入らなかったかもしれない。

そういう微妙さも抱えながら、この壁全体に展示すると決めた時に、どう展示するかがすごい大事、という話になり、コーダさんにレイアウトを決めていただきました。注意した点はありますか？

**コーダ** 出来るだけ同じ動物が並ばないようにっていうのはものすごく考えました。あと、色鉛筆で描いてる子と絵の具で描いてる子といますので、そういった画材が並ばないようにっていうのも多少工夫しています。

**富澤** なるほど。作品が届いたときは毎日驚きでしたね!

**コーダ** そうですね。「箱を開く時がすごい楽しい」って富澤さんからメールが来ましたね。富澤さんはその都度、届いた作品の封を開いて写メって、送ってきてくれてたんです。だから、その都度届くのが私もすごく楽しくって。すごい、楽しませてもらいました。

**富澤** この作品は、コロナ禍の不安な時に我々に元気をくれましたね。本当に。

**コーダ** うん、元気出ました。「本当に一生懸命描いてくれたな」っていうのがすごい伝わってくる絵が沢山で…。

**富澤** 途中で、人吉の水害があって…。

**コーダ** そうですね。九州豪雨があったので、そちら方面にお住まいの方もいるということで、富澤さんの方から「お声掛けしてみませんか?」っていうご提案をいただきました。人吉だけでなく、熊本市内やそれ以外のところに住んでる人達も、あの豪雨はすごく怖かったから、皆にお手紙を送りましょうとご提案をいただいたので、お手紙を書かせていただきました。「雨、怖かったね」「画用紙とか、もし流れた人はいつでも連絡してね」、とお手紙を送らせていただきました。

**富澤** コーダさんの励ましのお手紙が、コロナや大雨で疲れちゃって、描くのやめようかなと思ってた人への良い刺激になったみたいで…。

**コーダ** なりましたかね。締め切り前だったので、そういった応援になったかも知れないですね。

**富澤** 「お手紙いただいて、頑張って描けました」ってアンケートを書いてくださった方もいらっしゃいました。コーダさんの気持ちが届いて良かったなと思います。さて、私が聞きたいことは大体聞いたんですけど。

**コーダ** じゃあ、皆さんからもお聞きしましょう!なんでもどうぞ!

**質問者 2** イラストを描くために、動物園にはどれぐらいの頻度で、何回くらい通われたんですか。

**コーダ** 2017年の6月にお電話をいただいて、7月に入ってから制作開始したと思うんですけど、2017年は月イチペースだったと思います。  
本当は翌年の春に全面開園、オープンの予定だったんです。それが延期になったので、もうちょっとゆっくり描けるなと思って、2018年はたぶん月2回とか月3回ぐらいのペースで通ってました。だけん、年間で30回ちょっとですかね。

**富澤** まだ避難していた動物たちがいましたね。

**コーダ** そうです。猛獣、ネコ科の動物、ライオンとウンピョウとユキヒョウとアムールトラは、九州各地の動物園に一時避難してたので、アムールトラとライオンはアフリカンサファリと北九州の方で、ちょっと会いに行けなかったんですけど、大牟田と福岡市動物園に、ウンピョウとユキヒョウは会いに行きました。  
行ったは行ったけど、やっぱり向こうも慣れとらっさんけん、出てきとらっさんかったんですよ。中に引っ込んでらしたけん、何回か行きました。ユキヒョウは、2回目行った時は出てきてたんで、その時やっと見れて。福岡も2回目行ったときにやっと見れたのかな。

**富澤** 動植物園は、まだ足場も悪かったですよね。

**コーダ** もう結構直前までガタガタで、特に正面ゲート入ったところの入口付近も、1メートルぐらいの段差があって、すごかったですね。  
ユキヒョウの猛獣舎は上が割れたりしてたので、猛獣舎は全部取り壊して、新しくなってます。ガラス越しに、もう本当このぐらいの距離で見れる。ものすごい迫力です。まだ行かれてない方は是非行かれてください。

**富澤** ひとつお聞きするのを忘れていました。本展より前に行われていたコーダさんの巡回展に行かれた方いらっしゃいます?いらっしゃいますね。巡回展「どうぶつえんのどうぶつたち」

のお話をお聞かせください。

**コーダ** 当初、動植物園は2018年の春、4月に全面開園予定だったので、5月から巡回展をして、「再開園おめでとう!巡回展」みたいな感じにと思って企画をしてたんですね。ところが、4月にオープン出来なかったので、「熊本市動植物園を応援しましょう」と企画を変えて、各会場に募金箱も設置して、それで、九州内での私が縁のある場所の5ヶ所で巡回展をさせていただきました。

その時に、たくさんの方たちから、熊本市動植物園を応援したいと募金が集まって、夏向き的大型の業務用の扇風機をその募金でお届け出来ました。もう少し残っているので、何か必要なものにしてお届けしようと、今検討していただいています。

その巡回展が終わった後、びっくりしたんですけど、県内のいろんな図書館から、「是非うちでも応援したいから原画を貸して欲しい」とお話をいただいて、3ヶ所の図書館で、各図書館の独自の企画展として巡回展が始まりました。だから2019年まで、ずっと作品が巡回していた感じですね。ただし、全作品を展示したのはここが初めてです。

**富澤** すごいですね!

**コーダ** それと、「ふれあい広場の動物たち」シリーズは、今年に入って描いた新しい作品です。いつもは、モルモットとか、羊とかヤギとか、触れ合える場所なんですけど、今はコロナの影響で触れ合いは出来なくなってます。その動物達だけ、まだ予算の都合で解説パネルがありません。もともとが、飼育員さんたちが手作りでいろんなパネルなどを作ってらっしゃる空間なんですよね。だけど、その子たちも描きたいなと思っていたので、今年に入ってから、この展示に向けて、9種類の作品を新たに描きました。



「ふれあい広場の動物たち」シリーズより、コリデール



「ふれあい広場の動物たち」シリーズ

**富澤** それと、今回、コーダさんが特別に持ってきてくれた作品があと少しありますね。

**コーダ** 今回の展示作品は、全部で96点プラス新作9点と紹介してますが、本当は最初に99点描いています。その3点とは、レッサーパンダと、ニホンリスと、マレーバク。実はさきほどお見せしたリストの中に入っている動物です。この作品まで、看板にして動物園に納品してあります。実は、熊本に動物たちがまだ来てないんです。展示すると混乱を招くかなと思って、展示しませんでした。今日参加の方達にはお見せしたいと思いましたが持ってきました。これは何かというと、オナガキジのメスです。実はオスの尻尾だけの絵もありますが、今日持ってくるのを忘れちゃった…。

原画のオナガキジは、ちょっとシッポ切れてるんですけど、「あの横にメス鳥がいて」という解説パネルになってるので、動物園に行かれたらオナガキジを探してみてください。だいたい鳥はオスが綺麗って言いますが、メスは地味ですがよく見るとものすごく綺麗なもので、是非見ていただけると嬉しいです。

**富澤** 途中で絵のキャンセルが出たとか？

**コーダ** そうです。さっきお見せしたリストの順に描いていく中で、「まだ終わらん、まだ終わらん、間に合わん！」とか言いながら描いてたんですけど、いざ最後のビントロングを描き終わったときに「ああ、終わった…」と。ちょっとこう、しみじみとしてたんです。

そのときに、副園長の松本さんから電話があって、「コーダさん、ごめん。アカコンゴウインコじゃなくなって、ベニコンゴウインコになったけん。ベニコンゴウインコば描いて！」って言わせて、「え、アカコンゴウインコとベニコンゴウインコ、どぎゃん違うと？」と思って調べたら、やっぱちょっと違うんですね。それで、ビントロングでちょっとこうしみじみとしてたところ、またベニコンゴウを一生懸命描いたっていう…、それがこの作品です。

**富澤** 綺麗ですね。

**コーダ** アカコンゴウインコは、黄色の羽があって、顔のプチプチがないんですよ。こういう裏話もありました。

**質問者 3** 動物の仕草とかポーズについて、動物をよく見て描くという同じ条件の中で描かれたと思うんですね。特にペンギンは泳いでいたり、アクロバティックなポーズが多いと思うんですけど、普段は結構佇んでる姿も多いので、描きたかったけど色々な理由があって今のような作品になった、という作品があれば教えて欲しいです。

**コーダ** 基本的に、描きたいポーズでは描けていると思います。さっきもお話したんですけど、解説文に合わせるよう心がけて描きました。全て解説パネル用に描いた作品なので、基本的なポーズと言うか、そういったものを心がけています。あと、例えば、後ろ姿がキュンとするとか、お尻がかわいい、とかありますよね。だけん、そういうのは、個人的な楽しみとして描いていきたいと思ってます。

**質問者 4** 似ている鳥、サンケイ、あとキンケイ、ギンケイは、意識して差別化した点ってありますか。

**コーダ** いる場所が同じなんですよね。サンケイもベトナムキジも、この2つなんて、いまだに私ちょっとわからない。どっちが白羽根？って感じです。ただ、縦形に描くとか横形に描くとかで、違いは工夫しました。キンケイ、オウゴンキンケイ、ギンケイもそうです。

**質問者 4** 作品によって違うと思いますが、1点の作品にどれくらいの時間を要してますか。一番苦労した作品はどれですか。

**コーダ** 描き始めたら結構早いです。それは今回の作品以外もそうなんですけど、描き始めるまでが結構時間がかかります。例えばどういうポーズで描こうとか、そのポーズを決めるところまで結構時間がかかる。あと、気合も、「描くぞ」っていうテンションに持っていくまで、ちょっと時間がかかるんです。描き始めたら、例えば1日に1頭ではなく、1日に例えば2頭とか描いて、それを2日、3日かけて仕上げるみたいな感じだったと思います。

特に苦戦したのは鳥ですね。鳥はものすごく、ものすごく悩みました。特に目。もちろん羽根もです。写実的に描くことは私はできんから、私だからこそできるデフォルメ感を、ものすごく考えました。でも、デフォルメし過ぎると、今度は実際にいる現物の鳥と見たときに、なんかようわからんみたいな感じになるといかんけん、何回も描き直して、このくらいかなっていうところまでものすごく時間をかけて悩みながら描きました。

**富澤** 実際の動物の前に設置する案内板用に描いてるわけですから必ず比較されますよね。描き手としてはかなり過酷な環境ですよ。

**コーダ** はい。

**富澤** コーダさん、楽しいトークを本当にありがとうございました。

**コーダ** ありがとうございました。

編集：富澤治子